再生された森を通じて交流の深化・拡大へ

Wales Now Vol.80

発行日：2020. 09. 04

TOPICS

| インタビュー | 一般財団法人C.W.ニコル・アファンの森財団 森田いづみ理事長 / 野口理佐子専務理事
| NEWS | C.W.ニコル追悼展「森の祈り」信濃町・黒姫童話館で11月30日まで
| NEWS | C.W.ニコル氏の追悼番組を再放送 9月13日（日）14時からNHK地上波で

「アファンの森」は“日英友情の象徴”

英国ウェールズの出身で、今年4月に他界した作家・探検家のC.W.ニコル氏を偲ぶ追悼展が、9月2日から11月30日までの3カ月間にわたり、長野県信濃町にある黒姫童話館・童話の森ギャラリーで開催されます。その「C.W.ニコル追悼展『森の祈り』」に先立って、一般財団法人C.W.ニコル・アファンの森財団の森田いづみ理事長と野口理佐子専務理事にお話をお聞かせいただきました。

ー 追悼展の概要について、教えていただけますか。

森田　追悼展の副題として「C.W.ニコルの言葉と写真でつづる人生の軌跡」が掲げられている通り、ニコルの79年に及ぶ人生そのものをご覧いただくことを目指しています。ニコルの人生で大きなテーマとなっていた「人と自然との共生」「自然を大切にすることの重要性」を主軸に、ニコルを育んだ故郷・ウェールズや黒姫での森の再生を目指す取り組みを紹介し、書籍や生原稿・取材ノート・日記など作家としてのニコルの仕事を振り返る展示も行います。

ー ニコルさんの実績や功績などについても、改めて、お聞かせください。

森田　南ウェールズ生まれのニコルは、カナダで海洋哺乳類の調査研究に従事して、北極地域への調査探検などを行い、エチオピアでも野生動物保護省の官僚として国立公園の創設などを担った後、1980年から長野県に移り住んで、作家としての執筆

活動を続けながら、1986年には森の再生活動を実践するため、荒れ果てた里山を購入して「アファンの森」と名付けて再生活動を始めました。故郷のウェールズで、石炭の採掘と廃坑によって荒れた森が緑の回復を目指す人々の運動によって甦ったことを知ったニコルが、高度経済成長を背景に自然の破壊が進んだ日本で森を本来の姿に戻す取り組みに着手することになったのです。「アファンの森」を公益的な活動として全国展開するため、「C.W.ニコル・アファンの森財団」を設立し、自ら理事長となって活動を推進してきました。

ー 英国でもニコルさんの功績が高く評価されているとお聞きしています。

森田　財団による活動だけでなく、南ウェールズのアファン・アルゴード森林公園との姉妹森提携の締結、子ども達を対象にした「心の森プロジェクト」など、自然保護や環境教育活動を通じて英国やウェールズと日本との関係発展に大きく貢献したことが認められて、2005年に英国のエリザベス女王から「名誉大英勲章」を叙勲されました。2008年に英国のチャールズ皇太子が「アファンの森」を視察したのに続き、2011年には日本の天皇皇后両陛下に「アファンの森」の森林再生事業を進講するなど、その活動は英国の王室と日本の皇室からも注目されてきています。

ー 森田さんと野口さんの「アファンの森財団」とのお関わりについて、お聞かせいただけますか。

森田　もともと、以前、ニコルが所属していた会社に番組制作担当として入社したのですが、勉強のために色々な現場を踏めるニコルのマネージャーを1年間務めることになり、結果的には、30年以上にわたってニコルのマネージャーを務めてきました。そういう意味では、私は「ニコル学校の生徒」とも言えるかもしれません。ニコルの目を通して、日本という国における環境をめぐる様々な問題を見つめることになりました。その30数年の間に、小学校や中学校での環境教育も始まるなど、日本国内での環境に対する意識は非常に高まったと思います。もちろん、まだ、残されている問題もありますけれども、ある方がおっしゃってくださったように「ニコルさんは日本における『自然保護の父』」と言えるでしょうし、「ニコルさんがいなかったら日本の環境に対する取り組みや意識は、10年以上は遅れていただろう」といった指摘も、その通りではないかと考えています。

野口　私は、環境保護団体で活動するなど、ずっと環境に関わる仕事に携わってきました。最初は普通の会社員だったのですが、環境を通じて社会に貢献する起業などに取り組んでいる時に、ニコルと出会いました。「アファンの森」も最初は個人所有だったため、森の整備のためにポケットマネーで費用を負担していたニコルから「永遠の森として残すにはどうしたらいいだろう」という相談を受け、その方法を一緒に考えるところからスタートして、財団の設立を手伝わせていただくことになったのです。ただ、財団法人を設立するのが難しい時代状況だった事情もあり、1990年年代の後半にNPO法人を立ち上げ、当初は「アファンの森基金」として東京を中心に森の再生のための資金を集めながら、環境調査をメインとする活動を先行して開始していました。

ー 財団としての今後の展開や展望について、お聞かせください。

森田　財団を設立して18年目に入り、お陰様で「アファンの森」も本当に成長して、長野県の絶滅危惧種も60種が当たり前に見られるようになりました。その森で行っ

ている大きな活動の一つとして、ニコルがウェールズで学んで日本へ持ち帰ってきた「森の癒し力」を活用したプログラムがあり、この「森の癒し力」をもっと多くの人に知っていただくことで、森の存在意義を確固たるものにしていかなければなりません。特に、日本の未来を担う子ども達、それも、普通の子ども達よりも心に傷を負った子ども達が森でどれだけ回復できるか、どれだけ心のケアをすることが出来るかということを中心に理解を深めていければと思っています。虐待を受けた子ども達とか、東日本大震災以降は、津波の被害で心のケアが必要な子ども達、なかなか外遊びができない福島の子ども達など、そういう子ども達を「アファンの森」へ招待して、森遊びを中心にしながら「森の癒し力」を体験してもらうわけです。子ども達は本当に変わっていき、いじめられていた子が学校へ行けるようになったりしますから、親御さんからは「どんな魔法をかけたんですか」と言われるほどになっています。そういうプログラムにスポンサーがついて、子ども達が森に来てくれるようになってきていますが、「良い森さえあれば、人の心も子ども達も変えられる」ということを証明するために一所懸命にやってきて、そうした取り組みを続けていきたいと考えています。

野口　森も成長してきましたので、これからは森をどう利用していくかという段階に入っていきますから、森の整備をきちんと続けながら、森から得られる恵みをどのように具現化して、森の維持・管理のためにおカネが回るような仕組みをつくっていくかが問われることになると思います。行政への過度な依存はせずに、ニコルが一貫してやってきたように民間の力や市民の力を活かして、新しい連携の形も模索しながら、「豊かな森があれば、経済も回る」という社会づくりを目指さなければなりません。これからの「ウイズ・コロナ」と言われる時代に向けて、どのように社会と関わり、どう世界とつながっていくか、ということが重要になります。これまで国際交流などはニコル一人が担っていましたが、これからはウェールズも含めた世界と連携して、再生した森同士で姉妹林提携のネットワークをつくり、森を守っていくための情報交換などを強化していければと考えています。

森田　ニコルが日英同盟100周年を記念して、日本と英国の海軍の間の友情を描いた本を上梓した時に、当時の橋本龍太郎首相が東京で開かれた出版記念パーティーに出席して、「日本が開国して以降、英国から日本への最も重要な輸出品は、C.W.ニコルだ」と祝辞で述べられました。日本国籍を取得したニコルは、英国への愛情が変わることもありませんでしたし、エリザベス女王から勲章もいただいています。私は、日本と英国の友情の象徴が「アファンの森」だと思いますし、それが形骸化するようなことはあってはならないと考えていますから、英国やウェールズの人たちにも、日本で「こんな森を作ったんだ」「こんなことがあったんだ」ということをもっと知っていただけたらと願っています。

|NEWS|

C.W.ニコル追悼展「森の祈り」
信濃町・黒姫童話館で11月30日まで

今年4月に亡くなった作家・探検家のC.W.ニコル氏の追悼展が、9月2日から11月30日まで長野県信濃町野尻の黒姫童話館・童話の森ギャラリーで開催されています。「北に流氷、南にサンゴ礁がある、これほど自然環境の豊かな国は他にはない」という言葉を残している通り、日本の自然や文化を心から愛したニコル氏は、長野県黒姫に居を定めた後、自ら荒れた森を購入して生態系の復活に努め、森の再生を成し遂げました。長年住み続けた黒姫・童話館で開催される「C.W.ニコル追悼展 森の祈り ～ 日本を愛し、自然を愛した人生の軌跡」は、ニコル氏が残した人生の軌跡や想いを、ニコル氏自身の言葉で綴るものです。

《C.W.ニコル追悼展「森の祈り」開催概要》

○開催期間：2020年9月2日（水）～11月30日（月）
○開催時間：9時00分～17時00分
○会　　場：黒姫童話館・童話の森ギャラリー
〒389-1303
長野県上水内群信濃町野尻3807-30
TEL:026-255-2250
○入 館 料：童話の森ギャラリーのみ
一般300円・小中学生200円
○主　　催：信濃町
○共　　催：一般財団法人
C.W.ニコル・アファンの森財団

○内　　容：
(1)テーマ 森の再生に至るC.W.ニコルを育んだもの
故郷ウェールズやカナダ・北極時代、エチオピア時代、日本時代を紹介
(2)テーマ 黒姫での森の再生の取り組み
日本の未来のために、森をつくる
・荒れた森を買い取り、生態系豊かな森へ
・アファンの森財団の活動
(3)テーマ 作家・ニコルの仕事と表現活動を紹介
・書籍　・生原稿、取材ノート、日記　・著名人の書簡
・ニコル愛用の道具類など

|NEWS|

C.W.ニコル氏の追悼番組を再放送
9月13日（日）14時からNHK地上波で

NHK地上波（総合）で8月10日に放送された「アファンの森よ永遠に～C.W.ニコルからのメッセージ」が、9月13日に再放送される予定です。

「アファンの森よ永遠に～C.W.ニコルからのメッセージ」

○放送日時：9月13日（日）14時00分～14時59分
○チャンネル：NHK地上波（総合）
○番組内容：4月に亡くなったC.W.ニコルさんが、生涯をかけて育てたアファンの森。多様性に富んだその森はいくつもの奇跡を引き起こしてきた。ニコルさんが残したメッセージとは。
○出演：加藤登紀子、竹下景子、倉本聰
○語り：時任三郎

○詳細：長野県黒姫山の麓、およそ2キロにわたって広がる「アファンの森」は、絶滅危惧種の貴重な生き物や植物が息づく美しい場所だ。大木が切り倒された無残な姿になった森をニコルさんが少しずつ買い取り、30年以上の月日をかけて育ててきた。森はこれまで多くの人たちの心を再生させ、生きる希望を与えてきたという。森に秘められた力の源泉とは。そしてコロナ時代を生き抜く知恵とは。ニコルさんが残したメッセージを探る。
（※NHKホームページから）

編集後記

故・橋本龍太郎首相をして「英国から日本への最も重要な輸出品」と言わしめたC.W.ニコルさん。4月に旅立たれた後、その逝去を惜しむ声が各方面から寄せられてきており、8月にNHKで放送されたニコルさんの追悼番組が今月13日に再放送されるほか、永住の地となった長野県信濃町の黒姫童話館で3カ月にわたって追悼展が開催されるなど、改めて、その功績に対する評価が高まっています。日本の自然や文化を心から愛したニコルさんのお名前は、私たちの記憶にしっかりと刻まれ、その志も将来にわたって受け継がれていくことでしょう。